

学

園

長

だ

よ

り

第17回

# 清らかな輝き

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文

星が丘キャンパスの楠の木陰に碑があります。

『康子石』と名付けられたそのいしづみは、重い病にもかかわらず強靱な意志で、本学を卒業し25年の生涯を閉じられた右高康子さんの御両親から、25年前寄贈されました。

\*

平成4年、愛知淑徳短期大学の卒業式は2回おこなわれました。第一回は康子さん一人だけの卒業式です。

康子さんは昭和61年本学に入学し、フリスビー部に入部し澁刺とした短期大学生活を送っていましたが、2年生の後期に病が発症し、療養のため休学を余儀なくされます。

それから2年、病が癒えたわけではありませんが「大学を卒業し、いささかなりとも社会に貢献したい」という願いをかなえるべく、復学を決意します。

それからさらに2年、ご家族は勿論、クラブやクラスの友人、家政学科のスタッフ

の励ましと支えのなか、本人のひたむきな意志の力で、少しずつ単位を満たしていき、入学後7年目にして、ようやく卒業式を迎えるばかりとなります。

ところが、その大きな節目を間近にして病状が悪化し再入院となります。が、本人の強い願いにより、病院も特別に外出許可を出して下さるとのこと。

それで、体調を配慮し、康子さんだけの卒業式が開かれることとなりました。

3月9日、両親、友人、恩師列席のもと、学長室での卒業式。卒業証書を読み上げ、手渡した時の、康子さんの透き通るような肌を浮かぶ、さわやかな笑顔と涙。ご両親の感無量の表情。ささやかながら、おごそかで、清らかな式でした。

その年の3月18日、短期大学二回目の卒業式がおこなわれ、867人の学友が、自分なりに光輝ける存在になろうとそれぞれの志を抱き巣立っていきました。

9日前に卒業した康子さんも、生ある

限り前を向き進もうとする、その健気な姿が清らかに輝き、励まし支える人たちを逆に励まし続けたことでしょう。そして、その年の8月27日、25年の生涯を全うされました。

\*

今年6月、康子さんのお父様、右高氏が、星が丘キャンパスを訪問されました。

右高さんは会社を定年退職された後、『愛知県青年海外協力隊を支援する会』をボランティアとして長く支えておられます。

愛知淑徳大学は学生のボランティア活動を幅広く支援していますが、青年海外協力隊とは、隊員としてジャマイカで活躍している卒業生がいるなど、様々な繋がりがあります。

そうした本学の活動に対するお礼と今後の協力要請として、支援する会の会長さんと共に来訪されたのです。

25年ぶりの再会です。会見後、「康子石」にご案内いたしました。

木漏れ日のもと、右高さんがいしづみをそっと撫でられた情景は清らかでした。

ちる花はかずかぎりなし

ことごとく光をひきて

谷にゆくかも

(上田三四一)



康子石と右高さん(写真中央)